



サステナビリティへの主要な悪影響（PAI）に関する方針

本方針は、ティー・ロウ・プライス・アソシエイツ、インクおよびティー・ロウ・プライス・インベストメント・マネジメントを含むその関連会社（以下、「ティー・ロウ・プライス」。）に適用されます。ティー・ロウ・プライスは、EUのサステナブル・ファイナンス開示規則（SFDR）に従い、投資やエンゲージメントのプロセスにおいて、サステナビリティに与える主要な悪影響（PAI）を考慮し、必要に応じて投資判断に組み入れています。

PAIの特定と優先順位付け

SFDRの規定では、サステナビリティへの負の影響やその指標を特定し、優先順位付けを行うよう求めており、ティー・ロウ・プライスでは入手可能な場合は添付資料1に記載の口座におけるPAIデータを収集し、投資判断において考慮しています。さらにPAI指標の一部を、独自のESG評価システムである「責任投資モデル（RIIM¹）」に取り込んでいます。RIIMでは、投資との関連性、つまり投資に関する洞察を提供できるかという観点にてPAI指標を選択し取り込んでいます。これらの指標の中には、投資ユニバース全体に適用されるものや、ある特定の業種またはサブ業種のみにて投資と関連性があると考えられる指標のみ限定して活用しているものがあります。主な判断要素は以下となります。

- ビジネスモデルに対する指標の重要性
- 同業種における指標の入手可能性
- 指標の標準化のレベル（企業間で比較可能な指標か）

RIIMで用いられる指標（PAIやその他のデータポイント）については定期的な見直しを行っています。また、社内の責任投資リサーチ活動について毎年正式なレビューを実施し、ESGコミッティーに報告しています。ESGコミッティーの主な目的は、以下の投資フレームワークの確立を支援することです。

- 環境、社会、コーポレート・ガバナンスに関する課題の評価
- 適切な議決権行使ガイドラインの管理
- 様々な投資分野で使用される除外リストの監督と承認

ESGコミッティーは、ティー・ロウ・プライスのファンド取締役会にも投票結果や方針、手順、その他特筆すべき事項について定期的に報告を行っています。

投資プロセスにおけるPAI指標の活用

ティー・ロウ・プライスでは、思慮深く規律正しい投資プロセスを通じて、お客様の長期的な資産運用目標を達成することをミッションとしています。この使命に沿うべく、投資先企業のビジネスモデルの長期的な持続可能性や、持続可能性を変化させる可能性のある要素について理解する責務を負っています。

ティー・ロウ・プライスでは、環境・社会・ガバナンスの分析を従来の投資判断基準である財務、バリュエーション、マクロ経済、業界関連やその他の要因に加えて、ESGファクターも考慮するという、運用プロセスの基盤に統合するスタイルを採用しています。

運用プロセスへのESGファクターの統合は、投資アイデア段階の初期リサーチに始まり、運用プロセス全体を通じて行われます。この分析は複数の段階に適用され、次のような手順を経て行われます。

- ESGデータの識別とモニタリングに基づく銘柄分析
- 関連するPAI指標を含むESGリスクまたは「レッド・フラグ」を踏まえたファンダメンタルズ分析
- ポートフォリオ構築におけるESGリスクや投資機会の検討
- 取締役会、経営陣とのエンゲージメント
- 議決権行使（株式の場合）

ティー・ロウ・プライスでは、投資判断にESGファクターを組み込む責任は、リサーチ・アナリストとポートフォリオ・マネジャーが担っています。こうした運用プロフェッショナルが投資判断にESGファクターを組み込む際のサポート役として、ESGや規制関連の専門家を運用調査部門に配置しています。ESGスペシャリストは、リサーチ・アナリストやポートフォリオ・マネジャーと緊密に連携し、ESGを重視したリサーチやデータツール、個別テーマに関する専門的な知見を提供します。

当社独自のRIIMは、社内のESGスペシャリストが開発・管理し、アナリストやポートフォリオ・マネジャーによる運用プロセスへのサステナビリティ要素の組み込みをサポートするツールです。前述のとおり、RIIMはPAI指標の一部をその他の環境・社会データポイントと併せて活用して、発行体ごとのESGプロファイルを作成し、高リスクまたはポジティブなESG特性を検知します。リサーチ・アナリストとポートフォリオ・マネジャーは、必要に応じて各発行体のESGプロファイルにアクセスすることができます。図表1の事例が示す通り、ESGプロファイルでは、各発行体における環境、社会、倫理面のリスク特性からポジティブ特性までを、赤、オレンジ、緑の3色で色分けして示します。

このように保有発行体のESGプロファイルを評価することで、分析対象の発行体の投資テーマを組み立てる際、財務や経済、産業面の知見と併せて用いる判断要素としての利便性が向上しています。

¹ RIIM分析は各社で異なります。

ティー・ロウ・プライス・インベストメント・マネジメント（TRPIM）はティー・ロウ・プライス・アソシエイツ、インク（TRPA）とは異なる独自のESGチームを擁しており、別の事業体として2022年3月7日付で新たに登録・設立されました。TRPAとTRPIMのESGチームは独自の判断を下しますが、同様のアプローチ、フレームワークと投資哲学に従います。

図表1 企業のRIIM特性の例

RIIM 指標		— 重要ではない	● フラグ無/低	■ フラグ中程度	▲ フラグ高
○環境	■ 業務		● サプライチェーン（環境） ▲ 原材料 ■ エネルギーおよび二酸化炭素の排出 ▲ 土地利用 ■ 水利用 ● 廃棄物 ● 運営		
	● 最終製品		▲ 環境向け製品のサステナビリティ ● 製品、サービスの環境問題		
○社会	● 人的資源		▲ サプライチェーン（社会） ▲ 従業員の安全・待遇 ● 多様性、公平性、包摂性（DE&I）		
	● 社会		● 社会や地域社会との関係 ● 製品のサステナビリティ		
	● 最終製品		● 製品が人間の健康と社会に与える影響 ● 製品の品質・消費者問題		
□ガバナンス			■ 企業倫理 ● 贈収賄・汚職 ■ ロビー活動・公共政策 ▲ 会計・税務 ● 取締役会・経営陣の方針 ▲ 報酬 ▲ ESGに関する説明責任		
			■ データやプライバシー関連のインシデント		

TRPAとTRPIMではRIIMフレームワークをはじめ、分析内容は異なります。また、将来別々に変更を加える可能性があります。

RIIMは、ポートフォリオ・マネジャーが、ポートフォリオ全体における環境、社会または倫理面のリスクのホットスポットを把握するためにも活用しています。ESGチームは、ポートフォリオ・マネジャーと定期的なレビューを実施し、ポートフォリオのスクリーニング・プロセスで発見されたリスクのホットスポットやポジティブなテーマについて協議します。

RIIMは、外部のESGデータベンダーや企業報告、NGO、自社データセットなど、様々なソースからデータを得て処理しています。RIIMに取り込むデータを決定するにあたっては、それぞれの基準を慎重に分析し、以下の項目をチェックしています。

- そのファクターは投資先にとって重要か。
- そのファクターは、環境面または社会面の改善または悪化をもたらす重要な要因となっているか。
- そのファクターの裏付けとなるデータはあるか。
- そのデータは定量的または定性的な評価か。
- そのデータが定性的である場合、どの程度の主観性を伴うか。
- そのデータは均一的に開示されているか。発行体は同様の報告基準を採用しているか。
- そのデータは業界／地域内で一般的に開示されているか。

RIIM分析で使用するデータは時間とともに変化するものであり、SFDRで定められたPAI指標も含まれています。

運用業務におけるPAIの考慮

ティー・ロウ・プライスではSFDRに準拠し、当社の投資対象に関連するPAI指標の集計を年次で行っています。対象となる集計範囲は添付資料1のとおりです。PAIの各指標につき、対象口座のデータを集計・評価し、その範囲、重大性、該当する場合の発生確率、傾向を考慮します。また、データの入手可能性と品質も考慮します。

集計データを評価するにあたり、それぞれのPAI指標を個別に検討し、各指標毎に当社の投資判断から全般的な傾向を妥当に示しているかどうかを判断しています。それぞれのPAI指標は業界によって重要度が異なるため、個別指標を評価する際は、各指標が大きな影響を与える業界の保有銘柄全般に対する重要性を理解するよう努めています。例えば、森林破壊への取組方針の有無は、ハイテク企業よりも食品・飲料企業の方が重要です。食品・飲料関連企業はアグリビジネスのバリューチェーンに含まれるため、森林破壊が事業に重要な影響をもたらす可能性が高いためです。この場合、リターンと社会に与える悪影響を検討します。また、PAI指標によって開示レベルが異なるため、推定データに依拠する場合もあります。そのため、各PAI指標の重要性を評価する上で、ポートフォリオにおける指標の集計数値と指標に係るデータを報告している企業で構成されるユニバースを比較します。

当社は、この年次評価をエンゲージメントのプロセスに役立てることに加えて、必要に応じて特定のPAI指標について投資先企業への働きかけを行います。さらに、この評価とその後のエンゲージメント活動についてのレビューを実施し、ESGコミットteeと添付資料1に挙げたファンドの取締役会に報告しています。

データ収集方法とデータソース

ポートフォリオのPAI指標を集計し、そのパフォーマンス評価を年次で行うためには、何千もの企業について関連したデータポイントを収集することが不可欠です。SFDRでは求められていないものの、当社では各投資戦略に関わるベンチマーク構成銘柄についても同様のデータを収集しています。これによりPAI指標パフォーマンスへの理解を深めるための全体像が把握できる一方で、収集するデータ量は膨大となります。当社ではこの作業を効果的に進めるために、外部プロバイダーからデータセットの提供を受けPAI指標の算定を行っています。

また、ティー・ロウ・プライスではデータの収集および評価につき堅実な手法を採用しており、報告データが入手不可能な場合は信頼に値すると考えられる場合のみ推定データを採用しています。最も質の高いデータは投資先企業から直接提供されるデータであると考えています。

PAI方針の説明責任

本方針はESGコミッティーが管轄し、必要に応じて定期的に見直しを行っています。本方針に定める原則や手順の実施は、ESGチームが担当しています。

記録の管理

ティー・ロウ・プライスはSFDRが定める要件に従い、「サステナビリティに与える悪影響に係る開示」をウェブサイト上で公開予定です。同開示には、PAIの全体的な説明と活動内容、そして添付資料1に挙げる各会社毎に可能な場合は計測可能な影響とその対応を開示します。年次評価と関連するすべてのPAIデータを最新の開示日から5年間保管します。

添付資料（1）

ティー・ロウ・プライスにおける集計対象とするファンドおよび運用口座	
ティー・ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッド ティー・ロウ・プライス・アソシエイツ、インク ティー・ロウ・プライス・香港・リミテッド ティー・ロウ・プライス・オーストラリア・リミテッド ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社 ティー・ロウ・プライス・シンガポール・プライベート・リミテッド ティー・ロウ・プライス・インベストメント・マネジメント	ティー・ロウ・プライス・ルクセンブルク（TRPLUX）の契約下であり、これらの関連会社が運用を受託している口座 いずれかの関連会社が直接契約するEU域内居住者の個別運用口座であり、顧客がSFDRの適用対象である場合（例：顧客のUCITSやAIFなどの運用再委託受託口座）
ティー・ロウ・プライス（ルクセンブルグ）・マネジメント・SARL	ルクセンブルク籍のファンド： T. Rowe Price Funds SICAV T. Rowe Price Funds Series II SICAV Select Investment Series III SICAV T. Rowe Price Funds B SICAV T. Rowe Price Institutional FCP T. Rowe Price Kikantoushika-Muke FCP TRPLUXの契約下にある個別運用口座

INVEST WITH CONFIDENCESM

ティー・ロウ・プライスは、お客様に信頼していただける優れた運用商品とサービスを長期にわたってご提供することに注力しています。

T.RowePrice[®]

重要な情報

本資料は情報目的のみで提供され、特定の投資行動を取る投資助言または推奨を意図するものではありません。

本資料に記載される情報は、2022年3月7日現在のものであり、予告なしに変更されることがあります。これらの見解は、ティー・ロウ・プライスの他のメンバーの見解とは異なる場合があります。

本情報は、現在または過去の推奨、何らかの投資助言、あるいは何らかの証券または投資サービスの売買の募集の勧誘を意図するものではありません。提供された見解や意見は、特定の投資家または投資家タイプの投資目的や財務状況を考慮に入れていません。投資家は、投資判断を行う前に、自身の状況を考慮する必要があります。

本資料に記載される情報は、当社が信頼できると考える情報源に基づいていますが、当社はその正確性を保証しません。

© 2022年 ティー・ロウ・プライス。全ての権利はティー・ロウ・プライスに帰属します。「T. ROWE PRICE, INVEST WITH CONFIDENCE」および大角羊のデザインは、ティー・ロウ・プライス・グループ、インクの商標または登録商標です。